

かわさき区の宝物シート

宝物No.
1-13

いなげじんじゃ 稲毛神社

エリア	中央地区	シーズン	通年・夏
	川崎駅前北	日時	

目的	<input checked="" type="checkbox"/> 観る	<input type="checkbox"/> 遊ぶ・体験する
	<input type="checkbox"/> 食べる	<input type="checkbox"/> その他

宝物定義	<input type="checkbox"/> ものづくり	<input type="checkbox"/> イベント・祭り
	<input type="checkbox"/> 味づくり	<input type="checkbox"/> にぎわい
	<input type="checkbox"/> 現代の文化的なもの	<input type="checkbox"/> 港めぐり
	<input checked="" type="checkbox"/> 歴史的なもの	<input type="checkbox"/> 人物



写真提供：稲毛神社



所在地	川崎区宮本町7-7
問い合わせ	稲毛神社社務所
TEL	044-222-4554
FAX	044-245-2003
E-mail	info@takemikatsuchi.net
URL	http://takemikatsuchi.net/ (稲毛神社)
交通	JR川崎駅・京急川崎駅より徒歩10分



基礎情報

- 武の神とされる武甕槌神（たけみかつちのかみ）を祀った古社。浅間神社や佐佐木神社など15の境内社をもつ。川崎区で最古の神社といわれている。
- 境内には川崎市指定文化財（重要歴史記念物）である田中丘隅ゆかりの手洗石や、現存する宿場時代の木造建造物「子神社（ねのじんじゃ）」、昭和60年(1985)に発掘された「小土呂橋遺構」、樹齢1千年と推定される「大銀杏」など川崎の豊かな歴史を物語る史跡や、「佐藤惣之助の詩碑」「松尾芭蕉の句碑」「正岡子規没後百年記念句碑」といった川崎にゆかりの深い文人たちの記念碑が多くまつられている。
- 毎年8月1日、2日から直後の日曜日にかけて川崎山王祭が盛大に催される。

由来・エピソード

- 稲毛神社は、平安時代末期に川崎の地を領有していた河崎冠者基家が山王権現を勧請して以後、「河崎山王社」または「堀之内山王権現」などと呼ばれ、勝利と和合の神様として長く信仰を集めてきた。江戸時代には川崎宿の鎮守として地元住民の崇敬を集め、当時は毎年6月15日に行われていた例大祭「河崎山王まつり」は、その盛況なさまから「東の祇園」と称され東海道の名物のひとつにもなっていたという。
- しかし、大政奉還後の慶応4年(1868)4月、東征大総督・有栖川宮熾仁親王による「新政府の神仏分離の方針にふさわしくない」との意見から、鎮座地の武蔵国稲毛庄の名をとって「川崎大神稲毛神社」に名称を変え、明治中期には「稲毛神社」の名が定着した。

補足・その他



関連シート

- (1-14)稲毛神社 大銀杏
- (1-15)稲毛神社 手洗石
- (1-16)川崎山王祭
- (2-7)小土呂橋の親柱(擬宝珠)
- (6-10)中島八幡神社祭囃子
- (8-3)新田神社